



episode.12

危機を乗り越え 守られ続ける臥龍梅

話し手 藤川天神 宮司
かわぞえ よしひさ
川添 芳久さん (昭和21年9月15日生)

聞き手 川島学園 れいめい高等学校
2年 岩崎 優人
2年 山門 らら

「宮司への道」

この神社は、正式名が菅原神社なんです。菅原神社は菅原道真公を祀った神社で全国に約13,000社とたくさんあるから、ここは地名の藤川をとって「藤川天神」という通称で呼ばれています。

藤川天神は、世襲制度でずっとやっていて、私の家系は江戸時代からやってみたくて。私で7代目。それ以前は別の家が継いでいたみたいです。

私は、50歳頃に父が亡くなってすぐに継ぎました。その前は新田神社とかにいました。神職になったのが40代ですね。それまではサラリーマンです。父も市役所に勤めながら宮司をしていました。終戦後の神道というのはGHQ命令で国からの支援が無くなり、大変な生活だったんですよ。

「藤川天神・臥龍梅の歴史」

鳥居の側にあるのが、菅原道真公のお墓と言われています。その隣、柵の中にある梅の木が昭和16年に天然記念物に指定された梅なんです。菅原道真公が亡くなる前にお持ちになった1本の木がだんだん増えていったと言ひ伝えがあります。

梅というのは倒れて、倒れた所が地についてそこからまた新しい芽が出てくるわけですね。それを繰り返して行って現在にいたると言われています。

道真公は、梅の花が昔から好きだったから植えられたという言い伝えですが、資料は豊臣秀吉の九州攻めでほとんど無くなったみたいです。1587年9月5日に焼討にあっていますね。島津家は神社仏閣が政治拠点だったからですね。でも、梅は焼いてないんですよ。



「繋ぐ梅」

天然記念物に指定された梅の木は、だいたい55本あると言われているんです。臥龍梅は、木と木が繋がっていてどれが一本と数えられないんですよ。「臥龍」とは“龍がふせる”ということで、この根元がそういう風に見えたから“臥龍梅”。

昔は繋がっていた様子が見えていたんですが、昭和38年頃に根が枯れて傷んだものだから、土をかぶせてしまったんですよ。だから、臥龍梅というのが分からなくなってしまったんですね。ただ埋めたことでシロアリなんかが入って逆に良くないみたいです。

梅というのは生き物ですので、その年によって管理の仕方が変わってくるんですよ。専門的な知識がないから、そういう人から聞きながらですけど。消毒が年に5・6回、病気にならないように。それと剪定ですよ。梅を切らん馬鹿に、桜を切る馬鹿」という言葉があるように剪定をしないとダメなんですよ。年に1回、4月の初め頃に業者の人とかに頼んで。普通の人は剪定ができないですね。

夏場は“草取りと草刈り”が仕事です。私がやるんですけど、これが大変。この地域はですね、私が77歳なのに下から4番目なんですよ。平均が84歳で私が若いからいつまでたってもやらないといけない(笑)

「地元から愛された臥龍梅」

天然記念物に指定された決め手は、江戸時代に書かれた『三国名勝図会』という本に出てきたことです。その時から臥龍梅の位置が今と変わっていないんです。

他の資料を見ても同じ位置に描かれています。あと“竹の柵”が描かれていて、地域の人が昔から竹の柵を作ってこの梅の木を守ろうとした証ですよ。

この梅は、ほとんど実がなりません。花梅です。でも、たまに実が成ると、昔の人はその実をお守り代わりにしたようで、日清戦争や太平洋戦争に出兵する人は、この梅の実を持って戦地に行かれたと聞いています。無事に生き残って帰ってくるとその実をここへ返しにきたみたいです。

藤川という所は、山の中なんですよ、これだけの広さの平地というのがないんですよ。その貴重な土地を、梅の花だけのために囲いまして、ずっと守ってきたというのは何かあるんじゃないかなと思います。

